

福島第一原子力発電所現地確認報告書

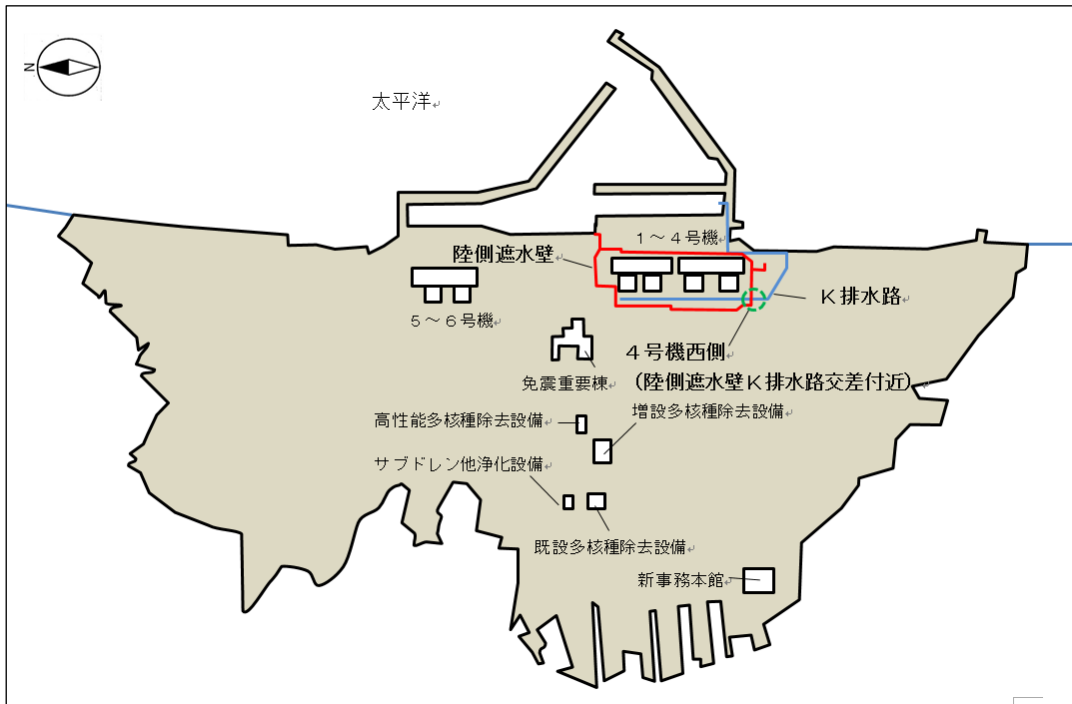
- 1 確認日
令和4年2月3日（木）
- 2 確認箇所
4号機西側（陸側遮水壁K排水路交差付近）
- 3 確認項目
陸側遮水壁測温管の温度上昇の対応状況
- 4 確認結果の概要

1～4号機建屋周囲に設けられている陸側遮水壁（凍土壁）の一部（K排水路交差付近）において、地中温度が0℃を超える状態が継続する事象（10月28日東京電力公表）が発生した。

東京電力では、地下を流れるK排水路の底部に湧水が確認されたことを踏まえ、地下水がK排水路に流入する過程で凍土壁の一部を融解し、地中温度が上昇している可能性があるとして、昨年12月13日までに地下水の流入を抑制するため上流側に鋼管を設置した。

しかし、その後も測温管の温度（地表下1m～3m付近）が上昇前に比べて高い値で推移していることから、原因究明調査の一環として測温管上流側の2箇所でもボーリング調査を行い、地下水の水みちの有無を確認することとしていることから状況を確認した。（図1）（写真1）

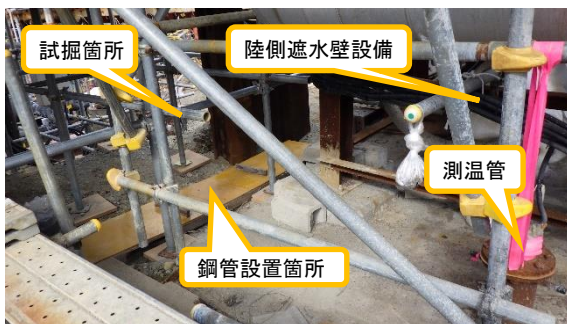
- ・ 前回の現場確認（令和4年1月27日）で試掘が行われていた箇所は埋め戻され、今回、ボーリングのガイド管として塩化ビニール管2本が設置されていた。（写真2）
- ・ その北側では、地下水の止水効果を高めるための鋼矢板の設置に向けて埋設物確認のための試掘が行われていた。また、試掘箇所の底部にはたまり水及び配管の埋設が確認された。（写真3）
- ・ 東京電力では、ボーリング調査、鋼矢板の設置及び近接する共用プール建屋の雨水排水の影響の確認を行い、原因究明を行うこととしている。



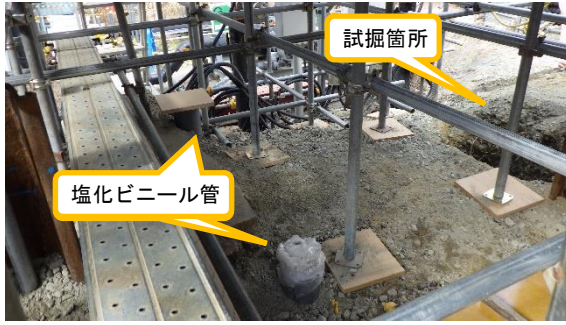
(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
現場付近の状況



(写真1-2)
温度上昇が確認されている測温管及び試掘箇所等の状況



(写真 2)
塩化ビニール管の設置状況



(写真 3 - 1)
試掘箇所の状況



(写真 3 - 2)
試掘箇所底部の状況

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。